



AA日本ニューズレター

No.221

AA 日本 50 周年記念集会を迎えて

元企画担当常任理事 村川

2025 年 3 月 28～30 日大宮ソニックシティにおいて、海外ゲストや全国各地のメンバーのスピーチをはじめとした、AA 日本 50 年の歩みを祝う催しが行われました。

客席から舞台上の仲間たちの姿を眺めながら、本来であれば 2020 年に兵庫県尼崎市で AA 日本 45 周年記念集会が行われるはずだった 5 年前を思い起こしていました。

私は 2018 年から 2022 年までゼネラルサービス常任理事を務めさせて頂きました。その任期中の 2020 年 2 月世界的なパンデミックの嵐が吹き始めたころ、当時の常任理事会は関西の実行委員会と協議をし、45 周年記念集会の中止という苦渋の選択をしました。その直後に緊急事態宣言が発令され、結果的には英断となったのですが、全国的にすべてのミーティング会場が開けなくなるという、AA 始まって以来と言っても良いような未曾有の危機を迎えました。

TV では毎日感染者数が報道され「不要不急の外出、密の回避」で、普通の会話すらままならない時期が続く、AA のみならず世界中を緊迫と閉塞感が包み込んでいました。

しかし、私たちのプログラムとフェローシップの力は、苦しんでいる仲間を助けようと驚くべき力を発揮していききました。すぐさまにオンラインの技術を活用したミーティングが全国に広がっていき、それを支えるサービスも展開されていききました。様々な趣向を凝らしたイベントも開催され、ミーティング会場がない遠隔地の仲間とのつながりや国境を越えた仲間とのつながりも培われ、オンラインでも新しい仲間が繋がっていききました。

そして、ゼネラルサービスにおいても同じく仲間たちのつながりと驚異のサービスが発揮され、フルオンラインにて滞りなく評議会を開催することができましたし、献金が集まらなくて JSO は困っているだろうと、



記念集会は 3 日間で 2,319 人が来場し、盛況のうちに散会となった

45 周年参加のために積み立てていた大切なお金を多くの仲間が献金してくださり、こちらも驚異の献金額となり、コロナ禍においても JSO を維持運営することができました。

中止となった記念集会においても、2021 年 3 月に同じように蓄積した経験と仲間のつながりを通して、関西の仲間たちが企画してくれたプログラムをそのまま濃縮する形で 45 周年記念集会オマージュイベントを開催することができました。それは、対面してのミーティングが極端に制限されていた私たちのフェローシップに大きな潤いをもたらしてくれました。

この 45 周年記念集会を含め、10 周年記念集会から始まり、一つひとつ積み重ねてきた記念集会。その時々には培われた経験もこの 50 周年記念集会実行委員会に引き継がれています。主に元評議員を中心とした関東有志のメンバーが 50 周年記念集会開催地への立候補の準備を進めて下さり、評議会の勧告を経て 2020 年の 10 月に準備委員会が開かれました。そこには“この危機にこそメッセージを”と集まったメンバーが 30 名を超えていました。コンベンションガイドラインの読み合わせなどと共に、過去の実行委員からの膨大な資料や経験、さらには海外の周年行事の経験なども分かち合われ、大きな盛り上がりを見せていました。そして満を持して開かれた第 1 回目の実行委員会は、オンラインを併用して行われました。

初めは遠慮がちであったホスト地域以外からの仲間の参加も、終盤が近づくにつれて熱を帯び、その熱は徐々に全国へと広がっていききました。そうしてこの 50 周年記念集会が、全国すべてのメンバーにとって“誰か”のやっているイベントではなく、“私たちの”飲まないで生きる喜びと感謝を分かち合うイベントになったのだと感じています。

10 年 20 年 30 年 40 年 50 年と重ねてきた私たちの歩みは、その前半こそ急速に広がりを見せたものの、ここ

20年ほどのメンバー数は減りはしないものの増えずに足踏みを続けています。そのことは私たちのメッセージ活動への問題提起なのだと感じています。

はたして日本人のどれだけの人がAAのことを知っているだろうか。そしてAAに来た苦しんでいる仲間は去って行っていないだろうか。私たちの無名性とは何なのだろうか。外部の関係機関との協力はできているだろうか。などなど、50年の節目にもう一度本来の目的に立ち返り問い返す時期なのかもしれません。

しかしこの数年間私たちは、逆境を力に変えるプログラムの奇跡と、仲間の驚異的なサービスを目の当たりにしてきました。オンラインやSNSなど技術の進歩は様々な可能性を示していますし、愛とサービスの輪も確実に広がってきています。そしてこの3日間、2000人に及ぶメンバーと300人を超えるご家族、医療・福祉・行政関係者、マスコミなどのノンアルコールの関係者が参加してくださったことが、そのことを証明しているように思います。

日本AA草創期の、あの急速な広がり再現の準備は整ってきているように私は感じます。

2025年3月30日（日）大宮ソニックシティ大ホール。AA日本50周年記念集會を締めくくるフィナーレ。壇上では4年に渡り懸命に準備を進めてきた実行委員会のメンバーたちが大きな喜びに包まれています。すべてがかつての飲んだくれたちです。AAプログラムの奇跡がまさに目の前に広がっています。

3日間を通して各所で見られた、飲まないで生きる喜びを全身で表す希望のメッセージは、新しいメンバーのみならず多くの関係者、家族、メディアの記者に印象強く伝わったことと確信しています。

実行委員会の皆さん、献金で支えてくださった全国のグループの皆さん、主催者である常任理事会の皆さん、長期に渡り本当にありがとうございました。

この奇跡のメッセージが、いま苦しんでいる仲間、そして未来の仲間に伝わることを願っています。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

AA日本50周年記念誌刊行にあたって

B類常任理事 企画担当 郷

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

1975年に東京・蒲田でステップミーティングが開催されてから、今年で日本のAAは50周年を迎えます。3月28～30日では大宮で50周年記念集會が開催されました。

それに合わせ、約2年間の編纂期間を経て『AA日本50周年記念誌』を刊行するに至りました。

この記念誌は『AA日本30周年記念誌』をベースと

し、アメリカ・カナダGSOからのメッセージ、歴代A類常任理事からのメッセージ、8つの地域に於ける専門家からのメッセージ、地域の歩み、地域のオフィスについて、AA日本評議会、常任理事会の歩み、地域の年表、ゼネラルサービスの年表、参考資料で構成されており、アーカイブ的価値の高いものとなるように編纂致しました。

日本のAAの半世紀にわたる歩みを多面的な切り口から掲載しておりますので、お読みになられるとそれぞれに感慨深いものを感じられるかと思えます。

私たちがどこからどのように来て、どこに向かっていくのか。これを見失うことなくAAの成長、原理、伝統を理解するために、この記念誌がお役に立てる事を心から願っております。また、AAの友人たちが私たちの歴史にアクセスできる一助になることを願います。

ぜひご購入されてお手元に置いていただき、永久保存版として手に取ってお読みいただけますと嬉しく思います。また、AAの友人(地域の専門家等)への広報にも最適かと考えております。

記念誌の刊行をまだご存知ない仲間の方々へもお知らせいただけますと幸いです。



AA50周年記念集會参加の記念や贈り物として、さらには新しい仲間たちやAAに関心をお持ちの方々にAAを案内し、そして回復と成長に役立つものとして各グループやそれぞれの場所で活用されることを願っております。

★ご希望の方は、JSOにお問い合わせください。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

さざなみグループに通った半年～関係者から見たAA～

新潟日報社デジタル報道センター(前柏崎総局)

田中溪太

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

初めまして、新潟県の地方紙「新潟日報」で記者をしている田中と申します。4月に本社に異動するまでの半年間、取材半分、個人的な興味半分で、柏崎市のさざなみグループのオープンミーティングに毎週参加しておりました。

きっかけはささいなものでした。昨年10月、柏崎市でアルコール依存症治療に取り組む関病院主催のフォーラム取材した際、登壇者だった、さざなみグループのHさんと出会いました。依存症に苦しみ自殺未遂まで追い込まれ、「酒を飲まないため息もつかなかった」

などと振り返る壮絶なエピソードに衝撃を受けていると、休憩時間に記者席にやって来た H さんに告げられました。「私のプロフィールが紹介されたときに AA の名前が出てしまったので、記事にするときには私の名前は伏せてもらえますか。写真も NG をお願いします」と語る H さんに、AA のことなど知らない私は何のことやらさっぱりでしたが、同時に「AA って何」と興味が沸きました。

H さんに誘われ、オープンミーティングに通い始めると、分かち合いでメンバーの方々が語る物語にペンが止まりませんでした(H さんから記録の許可は得ていました)。酒への依存がもたらす周囲との不和、家族との断絶、自殺未遂…。「焼酎のボトルを抱えて橋から飛び降りようとした」「酔い潰れ、父親が心臓発作で苦しんでいるのに何の手助けもできなかった」などと、取材ノートに書かれたメモを読み返すと今でもそのときの驚きがよみがえります。ミーティングは、酒に依存することの恐ろしさを肝に銘じ、参加者が仲間の力を借りて、何度も自分と向き合う場なのだと思います。

アルコールクではない私も「12 ステップ」には感銘を受けました。不正直で、自信過剰で、利己的な面は誰にでもあります。12 ステップからは、正直に、謙虚に、周囲に配慮する姿勢の大切さを学ぶことができました。自他共に認める酒乱である私は、AA につながる直前、酒をきっかけに職場の同僚と不和が生じていました。棚卸しを通じて、酒に酔うと人に絡み、配慮のない発言をする自分が相手を傷つけていたことを知りました。自分が嫌っていた人は、自分の欠点を気づかせてくれた人なのだと捉え直すことができました。

異動する直前の 3 月末には、H さんのお誘いで大宮での AA50 周年記念集会にも参加しました。国内外から集い、会場のあちこちで握手を交わす人々、ステージ上で次々に行われるフラッグ行進の様子は印象的でした。H さんは「みんな元アル中なんですよ」と話していましたが、そう言われなければアルコールクだとは分かりませんでした。「飲まない生き方」に向かって生きる人々の喜び、笑顔が会場にはあふれていました。

いつぞや、H さんに「ハイヤーパワーって、なんだと思いますか」と、質問を受けました。「AA という場が持つ力。仲間とのつながり」というのが、この半年間、AA とつながって私なりに考えた答えです。それが AA メンバーに力を与え、飲まない生き方を後押ししているのではないかと思います。

この半年間の経験を踏まえ、「断酒 一人じゃない AA さざなみの挑戦」というタイトルで、私が通ったさざなみグループの様子や、AA メンバー、医療関係者の声を紹介する連載記事をまとめました。今もどこかで苦しむアルコールクや、その家族、周囲の人々に AA の存在が伝わればと微力ながら願っております。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

第 3 回 AA 全国矯正・保護施設フォーラム開催に向けて 中部北陸地域前期評議員 長尾

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

第 3 回 AA 全国矯正・保護施設フォーラムが 2025 年 11 月 5 日(水)名古屋市長総合社会福祉会館 7 階大会議室で開催されます。中部北陸地域においての開催は 2015 年の福井県まちなか文化施設響のホール以来だと記憶しています。

その当時より矯正施設・更生保護施設に仲間と共にメッセージを運ばせていただく機会を与えて頂いていることには、心より感謝しております。アルコールを飲んでいるときには、自分に体験のないことなんて興味がないし、面倒くさいなどの理由で、あえてそのことに関心を向ける人たちとは関わらないことにエネルギーを費やしていただろうと思います。

そんな私も今は AA の中で、アルコールを必要としない生き方を与えられ、その恩恵を自分の辿り着ける範囲のところで行動し、お役に立てたらと思うようになり、サービスやメッセージにも新しい気持ちで参加させていただけるようになりました。しかし、刑務所メッセージで直接収容者に会うというのは、私がやることではないと思いました。収容経験がない私が行ったところで意味もないし、やってくれる人がいればその人達がやればよいと思っていました。

しかし、ある時先ゆく仲間が教えてくれたのは、私の話をどう感じとってもらえるかよりも、AA という存在をどのような立場の人にも知ってもらうことが大切なのでないかと。その言葉に私はとても影響を受け、矯正施設のメッセージチームに加えて頂き、収容者の方々や教育専門官の方と接触して AA の活動を伝えさせて頂いております。

さて、6 月より刑法が変わり、懲役刑と禁錮刑が拘禁刑という形に統一されるようです。出所後の再犯防止を強化することも目的のひとつで、各収容者の特性に合わせた更生プログラムを実施できるよう、刑務作業の時間も調整可能になるそうです。矯正施設への AA メッセージがこれまで以上に求められる時期が到来する予感もします。

犯罪を犯す人の中にはアルコールが絡んでいる割合が大きいことや、社会復帰後に犯罪などに巻き込まれる中でアルコールに掴まってしまうケースもあるかもしれないと、第 1 回 AA 全国矯正・保護施設フォーラムにて学ばせて頂きました。私たち AA メンバーができることは微力かもしれませんが、飲まないで生きているという奇跡を実際に会ってみて頂くことで、伝え続けていければ幸いです。最後に、第 3 回 AA 全国矯正・保護施設フォーラムにて、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

専門家協力委員会と広報委員会について

広報・病設担当理事 石川

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

3月のAA日本50周年記念集会では、専門家協力委員会主催による第1回専門家協力フォーラムを開催することができました。参加者は75名にのぼり、会場では立ち見となる方も多く、予想を上回る盛況となりました。現・元A類理事のご講話に耳を傾け、専門家とAAとの距離が近づいたように感じられ、AAに対する意見交換も積極的に行われました。

常任理事会委員会は広報委員会と専門家協力委員会と連携して活動しておりますが、AAに関する問い合わせ窓口は広報委員会に一本化し、内容に応じて適切に振り分けていく方針です。広報委員会の活動としては、ホームページなどの媒体を活用するとともに、マスメディアとの関係強化にも今後の課題として取り組み、一般の方々にAAについてより広く知ってもらうよう、今後も話し合いを重ねていく予定です。また各地域の広報活動は地域ごとの特性がありますが、情報を共有することにより、さらなる充実した活動につながると考えています。

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

西日本圏ゼネラルサービスフォーラムにあたって

B類常任理事 企画担当 郷

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

2025年12月20日(土)～21日(日)に、第2回西日本圏ゼネラルサービスフォーラムを開催致します。今回で他の地方圏も含めて4回目となりますが、ゼネラルサービスフォーラムという言葉は初めて聞く方もいるかと思います。ですので、まずはその起源であるアメリカのPRAASA(プラッサ)についてお話したいと思います。

PRAASAとはPacific Region Alcoholics Anonymous Service Assembly(太平洋地方サービス集会)の略で、アメリカ・カナダのゼネラルサービス機構で、8つある地方のうちの一つである太平洋地方で毎年3月頃に行われている大規模なサービス集会です。1968年が第1回で、毎年開催されています。

意見や経験の分かち合いを促進することにより、メンバーやグループ、そして太平洋側の各地域の中に、さらなる一体性を発達することができるよう、メンバー

たちが適正なAAについて話し合える機会を提供することを目的としています。

2019年にカリフォルニア州で開催されたPRAASAには当時のB類常任理事2名と仲間4名が参加しました。

この企画を日本でも実現できないかという事で、「地方圏ゼネラルサービスフォーラム・プレ企画」が2019年11月に名古屋で開催されました。午後のみ半日の開催でしたが好評で、これを足掛かりにして2020年の第25回評議会では定期的なフォーラムの開催が勧告になりました。

2021年12月18日(土)、19日(日)に、西日本圏ゼネラルサービスフォーラムがオンラインで開催されました。プログラムとしては評議会勧告に従い、常任理事会からのプレゼンテーション、WSM・AOSMからのプレゼンテーション、そしてパネル・ラウンドテーブルという構成でした。

2022年10月29日(土)、30日(日)に、東日本圏ゼネラルサービスフォーラムが札幌を会場としてハイブリッド方式で開催されました。プログラムは基本、西日本圏のものを踏襲しました。

2023年11月25日(土)、26日(日)に、関東甲信越圏ゼネラルサービスフォーラムが東京・八王子を会場としてハイブリッド方式で開催されました。プログラムは基本、東日本圏のものを踏襲しました。

これにより、日本に3つある地方圏でのゼネラルサービスフォーラム開催が一巡した形となりました。そして冒頭に書きましたように、今回第2回西日本圏ゼネラルサービスフォーラム開催の運びとなりました。

この新たな試みに多くの仲間が参加し、その熱気にAAの新たな可能性と喜びを見出した事は大きな希望でした。私自身、常任理事に立候補するきっかけになったのは東日本圏ゼネラルサービスフォーラムで受けた大きな感動でした。

今回の第2回西日本圏ゼネラルサービスフォーラムがより充実したものとなり、ゼネラルサービスへの関心が高まり、新たにサービスに関わってくださる仲間への理解の一助となる事を心から願っております。

尚、第2回西日本圏ゼネラルサービスフォーラムもハイブリッド形式にて開催致します。会場は決まり次第皆様へお伝えさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org>

jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)9:00～17:00 (土・日・祝) 休